淳熙三山志に就いて

三山志とは淳熙中泉州の梁克家が撰した福州の地志である、宋史藝文志に長樂志四十卷と記すもの。今本が四十二卷に作るは淳祐中朱貔孫が進士題名の部卷三十一、三十二を補つたからである。この書は多く抄本で傳はりさうざらにあるわけではない。京大圖書館に藏するものは頗る精抄本で繆荃孫の舊藏にかゝり、藝風堂藏書記にも著錄されてゐる。道光中程慶餘が劉燕庭の藏する明抄本と對校したもので目錄の末に次の如き手記がある。道光屠維作詻之歲孟陬月。据劉燕庭方伯所藏明人寫本對勘一過。烏程程慶餘記于吳中寓齋。卷三十の末に至元十五年の俗語の聖旨をそのまゝ寫してゐるのも面白い。

東京の靜嘉堂文庫所藏の抄本は卷末に錢大昕と陸心源の跋があり、陸氏が明の萬曆刊本と對校して各所を補つてゐる。陸氏の跋に依るとこの書は四十卷で原本の體裁を具へてゐるとあるが、それは目錄の上だけであつて內容はやはり四十二卷、京大本と同じ系統のものである。陸氏が閩中の楊雪滄侍讀から借閱したとある萬曆刊本これまた稀覯に屬するが我が內閣文庫には一本が藏せられてゐる。同文庫漢籍目錄には京口三山志と並記してある。（日比野）